

## 令和2年度 第1回 佐賀市中央大通り再生会議 議事要旨

### ◆日時

令和2年8月20日（木） 10:30～12:00

### ◆場所

佐賀商工ビル7階 大会議室

### ◆出席委員（敬称略、◎は座長、○は副座長）

荒牧軍治◎、伊豆哲也、牛島英人、香月道生、北島基晴、久米秀文、  
坂田慎一郎、白壁勝直、進龍太郎、田中丸雅夫、西村浩○、福岡桂、藤川謙二、  
古園裕久、三島伸雄、村岡祐吉、保田俊、山田健一郎、吉武弘嗣、吉村英夫

### ◆欠席委員（敬称略）

副島勉、宮原真美子

### ◆事務局

白井副市長、梅崎経済部長、坂井経済部副部長 外

### ◆傍聴者

4名（報道関係者を含む。）

### ◆議事要旨

#### 1 開会

#### 2 主催者あいさつ（白井副市長）

#### 3 佐賀市中央大通り再生会議について

《説明》

- ・佐賀市中央大通り再生会議設置要綱について（事務局）

#### 4 委員紹介

## 5 議事

(1) 令和2年度からの取組（中央大通りににおける魅力ある土地利用リーディング事業）

《説明》

- ・中央大通りににおける魅力ある土地利用リーディング事業（事務局）

《意見交換等》

○座長

中央大通りに関するこれまでの取組や今後の進め方について確認したい点や、現在の中央大通りについて持たれている印象など、委員の方々からご質問、ご意見を伺いたい。

○委員

解体コストが上昇し、建築コストと同程度の費用が必要となっている。建て直すとしても、所有者にとっては相応の負担が生じ、結果として駐車場や更地にせざるを得ない。新陳代謝を促進すると言うが、そう簡単なことではない。市としてどのように考えているか。

○事務局

耐震対策を含め、多くの社会的要請に対応していく必要があり、こうした状況を踏まえながら、都市機能の中心市街地への集積を進めていかなければならない。この会議において、さまざまなご意見等をいただき、民間投資を促すような取組を立案していきたいと考えている。

○委員

佐賀市の制度（中央大通り沿道賑わい空間創出支援制度）がなければ、中央大通りへ進出していない。進出したことにより、さまざまなイベントの開催をはじめ、街なかの方々との関わり合いが増え、非常に良かったと思っている。今後も若者が集まるような取組を実施していきたい。

○委員

中小企業は建物を解体できても、新たに建てることは難しいため、支援制度が必要と思う。ただ、賃貸、売却等により、所有者ではなく資金力がある者が進出し易くなれば良いと思う。発想の転換が必要だろう。

○委員

耐震改修促進法と建築基準法では基準が異なる。耐震改修はあくまでも延命策で

あるものの、耐震改修と新築のいずれかを選択するかは、あくまでも所有者の判断になる。耐震改修や新築のための区市による上乗せ補助が必要ではないか。

○委員

社内に専門部署を設けて地方創生に向けた取組を進めている。これまで培ってきたコネクションを活かし、デベロッパー等のさまざまなプレーヤーを呼んでくることもできるため、市と連携していきたいと考えている。

○委員

前回（平成29年度）までとの違いは、新型コロナウイルス感染症の影響であると思う。確かに中心市街地や中央大通りの活性化を考えていくに当たっては、建築物の問題は大きいですが、人へのアプローチも重要と考えている。新型コロナウイルスにより、生活スタイルが大きく変わる。この変化をチャンスにすることにより、人と金を呼び込むことが必要だろう。

○委員

様々な人たちが進出し、関わり合ってきており、非常に面白い通りになってきている。旧TOJIN茶屋跡地の活用方針を立案されるとのことだが、北側のまちかど広場や南側の駐車場、東側の土地などとも連携した活用方針が必要だろう。実践につながるような取組について議論していきたい。

○委員

今、日本は三大未体験ゾーン（超人口減少、大災害、新型コロナ）に突入している。こうした時代だからこそ新たなチャレンジができる。その一つが「SAGAナイトテラスチャレンジ」であり、この取組をきっかけとして、屋外空間の活用方法を日本中が再認識している。道路空間をはじめ、屋外の活用に活路を見出すことも必要だろう。

また、避難路に指定する中央大通りだからこそ、例えば、市が一括して駐車場を借り上げて高度利用を図ることや、初期投資を下げるための市の独自の補助制度を設けることなどを考えていく必要があるだろう。

(2) その他

特になし

6 閉会